

トヨタコンポン研 探査研究「生と死のはざま」 公開セミナー

人工ゲノムを持つ細菌から探る 「生命と非生命の境界線」

講師：柿澤茂行 (産業技術総合研究所)

近年、生物の設計図であるDNAを合成する技術が進展し、細菌の全DNA（ゲノム）を合成して「人工ゲノムを持つ細菌」が作成された。さらに、ゲノム中の遺伝子を限界まで削減し、必要最小限の遺伝子で生育する「ミニマルセル」も作成され、「生きるために必要な遺伝子はいくつか」「生命はどのように生きているのか」「生命とは何か」といった問いに高い解像度で迫ることができるようになってきた。本発表では、ミニマルセルから示唆される「生命にとって重要な機能」を紹介し、他の生物との比較を通して「生命と非生命の境界線」について議論したい。

日時：2026年10月16日 13:30-14:30

開催場所：筑波大学 TARAセンターA棟2階 セミナー室

世話人：筑波大学 豊福雅典 (5079)

後援：筑波大学 微生物サステイナビリティ研究センター

